国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
第83回経営協議会議事要録

日 時 令和元年11月21日(木) 12:45～14:30
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 国際交流会館1階 第1・第2会議室
出席者 浅野哲夫(議長)、寺野稔、永井由佳里、新田正樹、黒田壽二、丹康雄、
相澤益男、岩澤康裕、加藤邦紘、久和進、澁谷進及び平澤冷の各委員
欠席者 川西俊吾、岩野和生及び谷本正憲の各委員
オブザーバー 三宅幹夫監事、三谷明子監事、細野昭雄学長特別参与、神田陽治学系長、
上原隆平学系長、村田英幸学系長及び山本一彦石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和元年9月19日開催の第82回経営協議会の議事要録(案)について、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

議 事

<意見交換>

1 JAISTの現状について

①JAISTの現状について

学長から、JAISTの現状について、資料2に基づき説明があった。

②カリキュラム改革の検討状況について

永井理事から、カリキュラム改革の検討状況について説明があった。

③平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について

大学戦略・広報室長から、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について、資料3に基づき説明があった。

その後、JAISTの現状について、意見交換が行われた。

- ・U-Multirankの「学生1000人当たりの特許件数」で1位になったことは素晴らしいことだが、その要因をどう分析しているか。またJAISTの知財の特徴はどこにあるのか。
⇒まだその要因を十分に分析できていない。本学の知財の現状及び戦略について今後精査していきたい。
- ・業務の実績に関する評価において、業務運営の改善及び効率化が特筆すべき進捗状況にあると評価を得たことは喜ばしいことである。一方、国立大学には民間とは異なる制約がある中で、業務

運営の改善の内容と大学の実態との間に不整合が生じていないかという懸念を持っているが、そのような認識はないのか。

⇒業務運営の改善及び効率化の取り組みの中で、人事給与体系を複数の指標による客観的な評価に見直したこと、また、外部資金の獲得実績を給与に反映させるという仕組みを構築したが、学内での大きな異論はなく、実態として不整合はないと考えている。

- ・学長が掲げる産学連携の推進とは、主に産業界との研究開発の連携推進を意味していると理解しているが、大学は人材育成の場でもあるので、人材育成における産学連携も重要である。具体的には、地元や日本を代表する企業のトップを大学に招き、講話を学生に聞かせる場を設けるなどが必要ではないか。

⇒大変重要であると考えている。他方過去に、産業界から講師を招き講演会を開催したが、自由参加としたところ学生の参加が極めて少なかったということがあり、どのようにしてより多くの学生を参加させるかという課題がある。

⇒学生の自主性に任せるだけでは限界があり、まずは教員が産業界のトップの話聞くことの目的・重要性を理解し、教員から学生に伝えるべきではないか。

⇒産業界のトップにこだわらず、様々な分野で活躍されている外部の方の話聞く場を定期的に設けるということには賛成である。その際は、どのような分野の方をどのような目的で呼ぶかということを慎重に検討する必要がある。

⇒来春には、導入教育の一環として、地元産業界のトップの方にお話いただく場を設ける予定である。加えて、インダストリアルアドバイザーの方々にも協力いただき、講義に近い形でシリーズとしてお話いただくことを検討している。多くの学生を参加させるためには単位化するのが理想であるため、カリキュラム改革にも反映させていければと考えている。

⇒産業界の人の話を聞くだけでなく、学生に現場を見せるということも極めて重要である。知識や技術の修得だけでなく、学生に現場を見学させる機会を設けるべきである。

⇒一研究科として調和の取れたカリキュラムを作っていかなければならない。学際性こそ新しい領域を開くと考えているが、それに成功して活躍されている面白い方は様々な分野にいますので、そのような方の話を学生に聞かせたり、その現場を見せたりといったことをカリキュラムに組み込むことを検討すべき。

- ・昨今、日本の大学教育ではタコツボ化現象が大きな問題となっており、それが国力を著しく低下させていることが指摘されている。一研究科体制にしたことにより、他分野と交流できる環境を構築できたと考えているが、それに加えて、産業界を中心とした外部の方から、社会が今どう動いているかを教えてもらうということも、タコツボ化の打破には有効である。その際、日本の産業界だけにこだわらず、様々な分野の方を招くべきである。また、シリーズとして講義の形にし、単位を与えるということにも賛成であり、ぜひカリキュラム改革で取り上げるべきである。

⇒大学のタコツボ化というのは学生だけの問題ではなく、教員側にも問題があるのではないかと懸念している。学生を企業に送り出す立場であるにも関わらず、その教員自身が企業のことをよく知らない、または知ろうとしないということに懸念を持っている。

⇒タコツボ教育からの脱却を実現する上で一番重要な問題は、学位審査をどうするかということである。学位審査の仕組みにおいては、まず、どのような人材を育成するかを明確にし、それを実現させるための特徴ある教育体系を構築しなければならない。今回、インダストリアルアドバイザーを修士研究の中間発表会に招き、指導を受けたと伺ったが、それを明確なシステムとして見せるということが重要である。

⇒本学は、設立当初から、コースワーク重視、教員3人による複数指導体制、副テーマ研究の実施等の方針を採っていることからわかるように、タコツボ化をどう避けるかという意識はずっと持ち続けている。今後はその意識をさらに明確にしていきたい。今回は修士論文の中間審査において産業界の協力を得る試みを行ったが、実社会に役立つ力を備えた人材を育成するという視点から、今後も様々な方策を検討していきたい。

- ・以前、産業界が教育機関に対して、即戦力人材の供給を要請した時期があった。その際に教育機関からは、すぐに役立つ人材はすぐに役立たなくなるとの反論がなされた。私は、特に大学院の教育上の役割は、専門性の高い、すぐに役立つ人材ではなく、グローバルでダイバーシティな視野を持った、人間的に幅の広い人材を育成することだと認識しているがいかがか。

⇒本学では、確かな専門性と幅広い視野や人間力を兼ね備えた人材の育成を目指している。

- ・JAISTには教育に関する三つのポリシーがあるが、教育面に関する産業界との連携ということをポリシーに明記すれば、JAISTのユニークさが出るのではないか。JAISTは創立以来、パイロットスクールとしての実績があり、JAISTとしては当たり前になった取り組みも、外から見れば新しい試みであるということも数多くあるため、そのようなことをもっと外にアピールしていくことが重要である。

- ・米国では、企業に就職した後、違う分野の知識や技術を得る目的で大学院に再入学ということがよくあり、学生同士のコミュニケーションによって、自然に異なった企業の文化に触れることができる環境がつけられている。JAISTでもそういった学生を一定数受け入れることを検討してはどうか。

⇒重要なことであると認識している。しかし、米国では企業での活動を中断して大学院に入っても一定の収入が保証されることが多いのと比べ、日本ではそのような保証はなく、年功序列の給与システムや退職金に縛られているため、大学に入りなおすと所得が激減してしまうという実情がある。そのことが日本におけるリカレント教育の推進の障害になっていると感じている。

- ・ドクターコースについて、大学で実際に行われている教育・研究と、産業界、特に地元企業がイメージするものとかなり乖離があると感じている。産業界は大学をより理解する必要があるし、大学も産業界が大学に期待するものを理解する必要があるので、今後、そのような場を設定したいと考えている。

- ・外部の有識者が集まる経営協議会という場において、JAISTの中の諸問題に関する議論に終始して

しまっていることについて、少し視野が狭いのではないかと感じている。例えば、世界的に見て日本の基礎科学力は低下していると言われており、国内に目を移せば、文部科学省が大学をどうしようとしているのか、今後国立大学の数を減らしていくのかという問題もある。もちろん必要な審議・報告等は行った上で、そのような事柄にまで視野を広げて議論する機会もあった方が、大学にとってより有益な場になるのではないかと感じる。

<報告事項>

1 令和元年度補正予算について

会計課長から、令和元年度補正予算について、資料4に基づき報告があった。

2 令和2年4月入学入試状況について

教育支援課長から、令和2年4月入学入試状況について、資料5に基づき報告があった。

3 職員給与規則等の一部改正について

人事労務課長から、職員給与規則等の一部改正について、資料6に基づき報告があった。

4 最近の本学の活動状況について

大学戦略・広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料7に基づき報告があった。

5 最近の本学に関する新聞報道について

大学戦略・広報室長から、最近の本学に関する新聞報道について、資料8に基づき報告があった。

<その他>

1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和2年3月19日（木）に予定している旨の説明があった。

資料

- 1 第82回経営協議会議事要録（案）
- 2 J A I S Tの現状について
- 3 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）
- 4 令和元年度補正予算について
- 5 令和2年4月入学入試状況について
- 6 職員給与規則等の一部改正について（案）
- 7 最近の本学の活動状況
- 8 報道された本学関係記事

参考資料

- 1 J A I S Tの全体像